

ちょうしづか新聞 第20号

国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳整備事業に伴う試掘調査速報

発行日:2004年12月3日(金曜日) 発行:山梨県埋蔵文化財センター資料普及課資料第2担当

銚子塚古墳周溝から「火鑽板(ひきりいた)」が出てきたぞ!

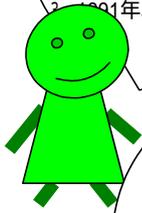
久しぶりの発行です!銚子塚古墳の試掘調査は11月初旬で一旦終了しました(あと少しだけ調査しなければならない部分があるので、1月に再開する予定)。現在は、今年度の調査で出土した遺物(埴輪・土器・木製品など)の整理を室内で進めています。出土した遺物は泥だらけなので、きれいに水洗いしてどのようなものか出土したのか調べ、図化したり分析したりしていくのです。

このような室内作業を進めていくと、出土したときには気付かなかった重要なモノを発見することがあります。今回はそんな一例をご紹介します。

やあ!久しぶりだね。銚子くんだよ。
この木切れは厚さ2cm、長さ10cmくらいのどうってことのない木切れだったんだ。しかし、水できれいに洗ってみると木切れの上面に円い窪みがあり、その窪みの端っこ(木切れの側面)に細い溝みたいな切りこみが入っていることがわかったんだ。
しかも、窪みは2つ並んでいて、同じように切りこみが付いているよ。これは何か人工的なモノであることはまちがいない!しかも窪みのまわりは黒く焼け焦げたようになっているんだ。
ウムム、これは「火」に関係あるモノだと直感しましたよボクは。
さらによく調べてみると、これは大昔の人々が「火」をおこすために使った「火鑽板(ひきりいた)」「または火鑽臼(ひきりうす)」であることがわかったんだ。
この木切れは銚子塚古墳の周溝の底から古墳時代前期(4世紀末頃)の土器と一緒に出てきたものなんだ。
ということは、この木切れは古墳時代前期の人々が使っていた「火切り板」である可能性が極めて高いということになるんだよ。こりゃー大発見だー!

古墳時代の火鑽板だとすると山梨県内ではとても珍しい出土例になるよ。日本中でもそれほど出土例はないんだ!

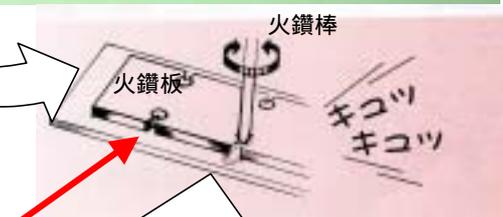
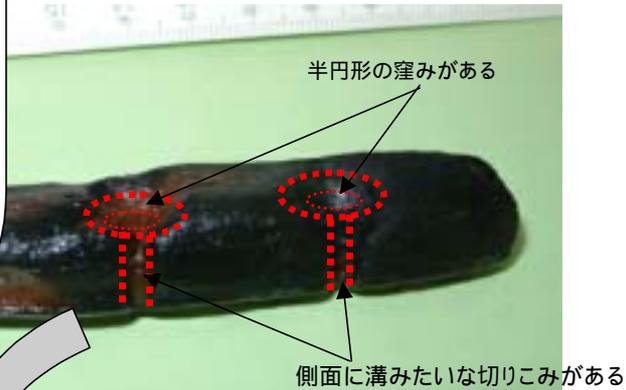
[参考文献]高島幸男氏「発火具・照明」『古墳時代の研究』2001年、雄山閣



火鑽板はね、古代の人たちが火をおこすために使った道具なんだ。火鑽板にある窪みに棒(火鑽棒)をあてて、グリグリ回転させて摩擦によって火種を作るんだよ。



グリグリ ゴリゴリ



火鑽板と火鑽棒を使った発火方法
「火鑽板の窪み」に「火鑽棒」を当てて回転させる
お互いが摩擦でこげ崩れて粉が出てくる
その粉が側面の切れこみを伝わって下へ落ちる
その粉に小さな火がついて「火種」になる
その火種をワタなどに移すとポッと火が付く

[連絡先] 山梨県埋蔵文化財センター 資料普及課資料第2担当(森原・森屋)
〒400 1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 電話055 266 3016 ファックス055 266 3882
e-mail morihara-thb@pref.yamanashi.lg.jp

ちょうしづか新聞ニュース

この新聞のカラー版が山梨県のホームページで閲覧できるようになりました!さっそくアクセスしてみよう!

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/30478716501.html>

または検索エンジンで「山梨県埋蔵文化財センター 発掘調査情報」と入力して探してください!